

平成30年度 長野市中心市街地活性化プラン 数値目標フォローアップ

平成31年 3月18日

1 目標指標の状況

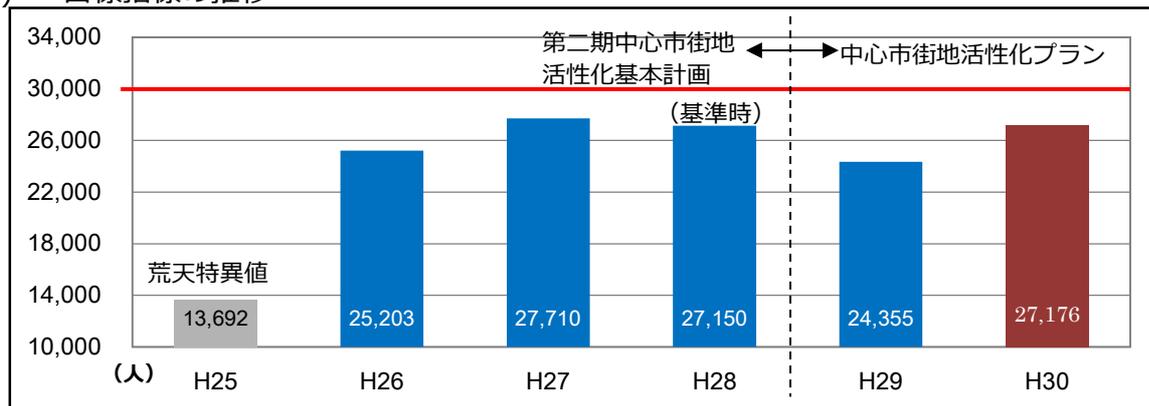
活性化の目標	目標指標	基準値 (H28)	目標値 (H33)	最新値		状況
				数値	時点	
目標 1 行きたくなるまち	善光寺仁王門前の歩行者・ 自転車通行量 (人/日)	27,150	30,000	27,176	H30.10	B
目標 2 住みたくなるまち	総人口に対する中心市街地の 人口比率 (%)	2.47	2.65	2.53	H30.10	B
目標 3 巡りたくなるまち	①中心市街地（6地点）の 歩行者・自転車通行量 (人/日)	112,504	108,000	108,112	H30.9	A
	②中央通り及び権堂アーケード 沿い1階部分の空き店舗数 (件)	21	21	24	H30.10	C
目標 4 交わりたくなるまち	もんぜんぶら座及び生涯学習 センター並びに権堂イースト プラザ市民交流センターの利用 者数 (人/年)	560,735	583,000			

※ 状況

- A：基準値以上、目標値以上
- B：基準値以上、目標値未満
- C：基準値未満

2 目標 1 「行きたくなるまち」について

(1) 目標指標の推移



(2) 目標達成に寄与する主な事業の状況

仁王門前の歩行者通行量は昨年と比較し約 1 割増加し、ほぼプラン策定時の基準値まで回復した。昨年は雨天での計測だったことに加え、今年は計測日の夕方から夜にかけて善光寺で十夜会が行われた効果で、午後から夕方にかけて昨年を上回ったと考えられる。

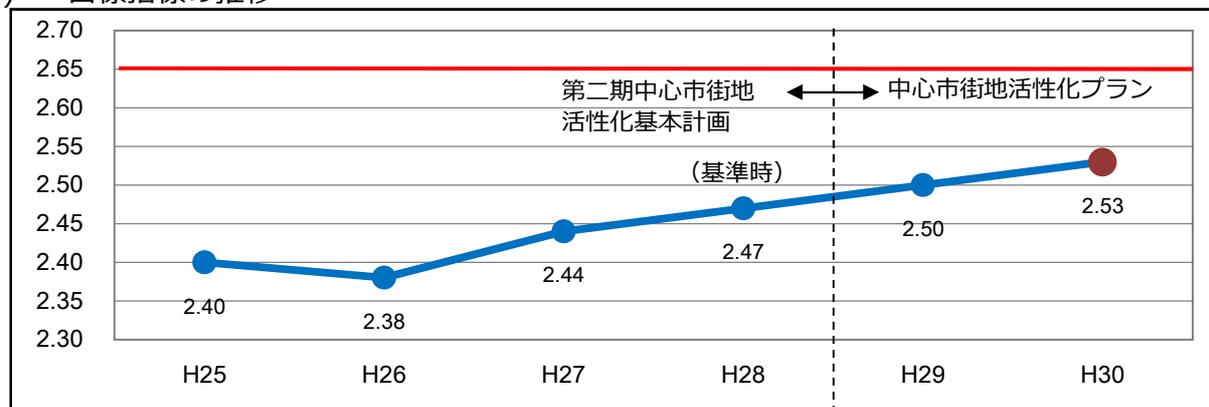
全体の推移をみると荒天による特異値だった平成25年を除いて、26,000人前後で安定して推移しており、目標値である30,000人に到達するには実施中の事業による効果発現が必要である。

通行量は善光寺表参道にあたる南北方向のみを計測しているが、増加のペースが想定を下回っていることについてはリノベーションによる魅力ある店舗が周辺に増加するとともに、街なみ環境整備に

よって各小路に魅力が向上したことで、表参道以外を通行する人が増えた可能性がある。引き続き、周辺の回遊性を高めることで表参道の通行量も比例して増えていくと見込まれるため、城山公園の再整備等により、一帯を文化・観光・レクリエーションの拠点としての整備を推進する必要がある。

3 目標2「住みたくなるまち」について

(1) 目標指標の推移



【実数】(単位：人)

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
長野市 総人口	385,897	384,641	383,639	382,249	380,593	378,351
中心市街地 人口	9,245	9,157	9,351	9,426	9,516	9,585

(2) 目標達成に寄与する主な事業の状況

目標指標である割合を見ると右肩上がりの状態が続いており、目標達成に向けて順調に推移している。

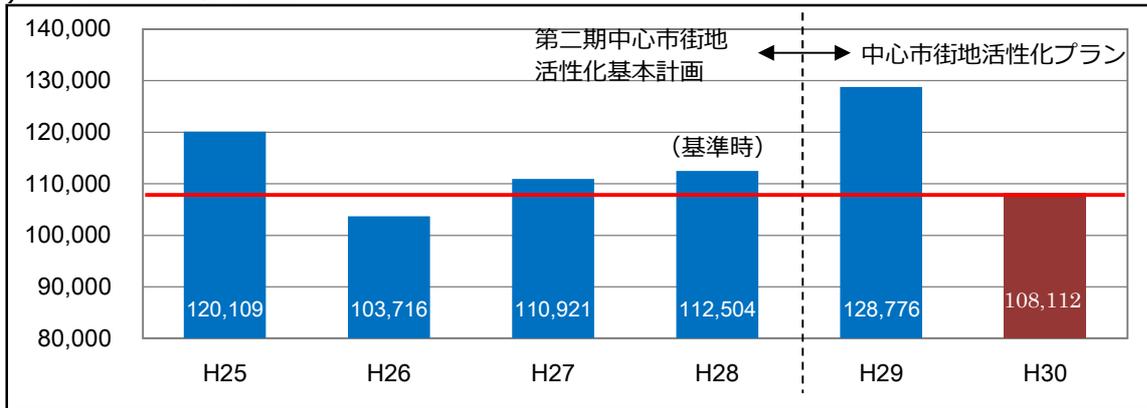
住民票から算出した、目標指標のもととなる人口の実数は、昨年と比較し総人口が2,242人減少したのに対し中心市街地の人口が69人増加となっている。平成30年4月の長野県立大学象山寮には人口増加が期待されたが、地区別でみると象山寮がある大字南長野西後町の人口増加は14人だけで、入寮者240人が増加分として現れていない。これは学生が住民票の異動を行わなかった可能性が高いと考えられる。しかし、実際には学生と地元住民との交流が積極的に図られ、祇園祭にも学生が多く参加し近年引き手不足だった屋台巡航も盛況のうちに行われる等、地域コミュニティ向上に対する効果が出ている。

一方、大きく増えている地区は大字三輪で169人の増加となっている。これは平成29年12月に完成した民間のマンションが新たに完成したことが大きな要因ではないかと考えられる。

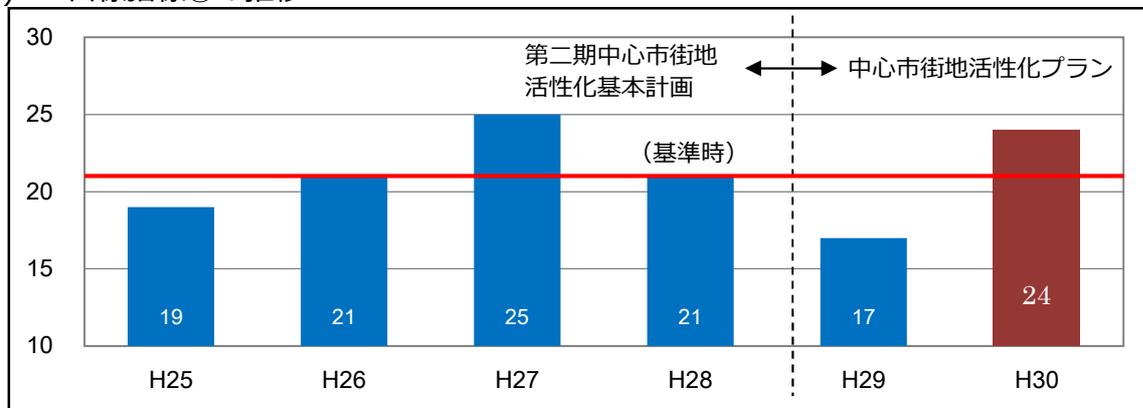
今後は平成31(2019)年度中に完成が予定されている「南石堂A-1地区優良建築物等整備事業」を計画通りに進め、さらに遊休不動産活用事業で古く趣のある建物に価値を見出す若者の門前等中心市街地への転入を促す。

4 目標3「巡りたくなるまち」について

(1) 目標指標①の推移



(2) 目標指標②の推移



【地点別内訳】

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
中央通り	12件	14件	17件	19件	16件	21件
権堂アーケード	7件	7件	8件	2件	1件	3件

(3) 目標達成に寄与する主な事業の状況

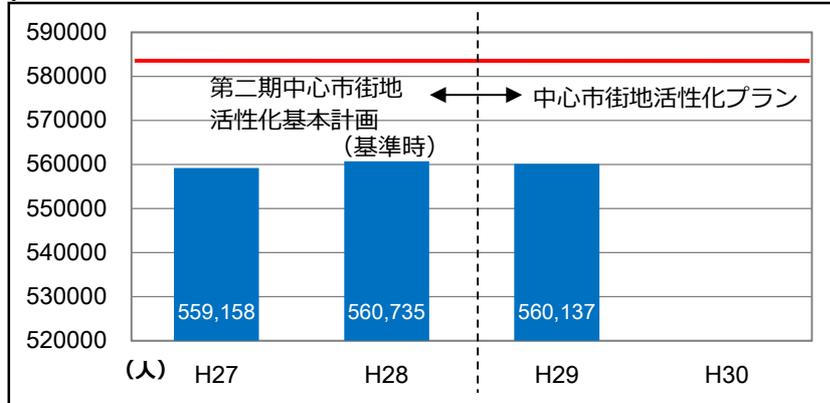
目標指標①の歩行者通行量は中心市街地内の6地点（32ポイント）で測定している。測定値は前年と比較して2割近く減少したものの目標値をわずかに上回った。6地点それぞれの前年との比較はすべてマイナスで、6%～27%の減少率である。細かくポイント別でみると全32ポイントのうち前年から増加したのはわずか2ポイントのみである。前年から最も大きく減少したポイントは善光寺口駅前歩行者専用デッキ上だった。これはH29年の測定日だった9月1日がドン・キホーテ長野駅前店のオープン日当日だったことが影響していると考えられる。

目標指標②の空き店舗数は「県庁緑町線沿線地区整備事業」が具体的に始まり、県庁緑町線用地に残っていた空き店舗の解体も終わったことで指標に影響した。昨年度と比較して7件空き店舗が増加したが、測定方法の精度によるものが影響していると考えられる。従来、現地踏査のみで調査を行っていたが、今年度からまちづくり長野への聞き取り調査を加えたため、より精度の高い調査結果となった。具体的には、外観からの目視では分からない空き店舗や、反対に営業している店舗を厳密に区別することができた。実数として、街づくり長野への聞き取りで閉店扱いにしたものが6件、営業中扱いになったものが2件である。中心市街地活性化プランの1回目の最終フォローアップとして今回から詳細に行ったが、来年度以降もまちづくり長野と密に連携を取って調査を行っていく。

結果的に、前年と比較して増加したことは事実であるため、今後も「空き店舗活用事業」や「集客イベント等開催事業」の相乗効果で空き店舗を減らしていくことが必要である。

5 目標4「交わりたくなるまち」について

(1) 目標指標の推移



(2) 目標達成に寄与する主な事業の状況

今年度末までの数値は未集計のため、1月時点（権堂イーストプラザのみ11月時点）の数値を比較すると、昨年度までとほぼ同数である。稼働率を施設別にみると、もんぜんぷら座は貸館部分のぷら座BOXやぷら座ホールでここ数年常に90%前後で推移している。権堂イーストプラザはH27年度の完成以来、稼働率40%～50%で推移していたが、今年度はこれまで全貸室、スペースで60%を超え、権堂イーストプラザ全体の平均でも68%となっている。また、生涯学習センターはどの会議室も稼働率が50%前後で毎年推移している。

各施設の利用者実数は、昨年と比較してもんぜんぷら座と生涯学習センターでほぼ同数、権堂イーストプラザで若干増加となっている。もんぜんぷら座は高い稼働率で推移しているため利用者増加は簡単ではないが、権堂イーストプラザは稼働率が上昇した分利用者数も増えており、生涯学習センターは今後稼働率を上げることで利用者の増加が見込まれる。生涯学習センターには140人以上入れる大会議室が3つあり、稼働率が少しあがると利用者実数が大きく増えるため今後は稼働率をあげるため、講演会の誘致やイベントの告知期間や場所の再考等していく必要があると考えられる。

6 総括

中活プラン3年目となる今後は、中心市街地内の居住人口の増加や、公共施設の利用者増加を目指す取り組みを引き続き進めるとともに、まちなかを回遊させるために新たな取り組みを始める必要があると考えられる。

長野市全体の人口は昨年から2,242人減少し、合併後の長野市で初めて年間2,000人を上回った。しかし人口増加を考えると、近隣市町村同レベルでの人口の取り合いにはメリットがなく、広域視点で人口の獲得を増やしていく必要がある。平成31年4月には、長野駅前に清泉女学院大学の看護学部が、今井駅周辺に長野保健医療大学の看護学部がそれぞれ新設される予定で、現在80%前後である県外への大学進学率の低下に期待がかかる。それに伴い人口増推進課で行っているUJIターンへの取組によって、地元に戻る気持ちのある県外の大学生と県内企業とのマッチングや、その手前のインターン段階でのマッチング、さらには県外に住む大学生の子を持つ親向けのセミナーを今後も継続して行うことによって、県外からの人口の獲得を目指す。そこで、長野ならではのジビエや等の資源や四方を囲む山々へのアクセスの良さ、四季折々の見どころをアピールし、さらにその中でも市街地循環バスぐるりん号の運航ルートと運行時間の再編、「長野駅周辺第二土地区画整理事業」による東口の整備等、まちなかの利便性を向上させる取り組みによって、増加傾向にあるまちなか居住を一層

推進していく。

観光客向けに関しては、平成31年度中の完成を目指して整備しているまちなか広場を、中心市街地の憩いのスポットとして据えその場所に関わる人（関係人口）の増加を目指すとともに、長野駅から善光寺表参道の歩行者優先道路化を旧県道の部分でも進めることでさらなる歩行空間の整備を目指す。

また、今年度から機構改革により観光振興課内にインバウンド国際室を設置し、中心となって初めて長野デザインウィークを行った。これは冬場特に少なくなる夕方から夜間の観光客の獲得をめざした、長野駅前広場から善光寺までを一体で盛り上げる光のイルミネーションイベントで、期間中は観光客はもちろん地元の人にも訪れ賑いを見せたことで、当初12月末で終わる予定だったが2月まで延長になった。今後は灯明祭との差別化を一層図り、それぞれの長所を活かし単年のイベントで終わらせず引き続き盛り上げる必要がある。

今年度は、長野オリンピックの際に始まった一校一国運動を継続して行っていたことが一つの要因となり、今後5年間デンマークの競泳チームが長野市で合宿を行うことが決定したり、友好都市の中国石家荘市から、副市長を含む友好視察団が訪れたりするなど、国外に長野市をアピールする良いきっかけが増えてきており、これからもインバウンドの獲得に期待がかかる。